

5-1 検証結果【食事スペース】

食事は、飛沫感染を防ぐため、できる限り占有スペース内での食事が望ましい。

食事スペースを設置をする場合は、順番制にしたり、向かい合わせのイスの配置を避ける、消毒を徹底するなど、感染症対策のための運用ルールが必要とされている。

感染症対策の運用ルールを踏まえた食事スペースを検証した。

レイアウトの検証

1. 配食の呼び出し

避難者台帳や滞在場所の番号順で呼び出しを実施した。

大声を出さないようメガホンを使用して呼び掛けを実施した。

○呼び掛け例

「配食の準備ができました。滞在場所の番号でお呼びしますので順番に取りに来てください。」

「健康セルフチェック表を入口で回収いたしますので、ご準備ください。」

「まずは、1番から20番の方、入口で手を消毒してから来てください。」

「だいたい30分後に一旦消毒を行った後、21番以降の方をお呼びします。」

2. 配食台

目の前で取り分けず、あらかじめラップなどで個別に包装した物を配食台に並べた。

検証では、温めたレトルトを想定して実施した。

配食台から2m離れたところから、並んでいる避難者へ声掛けを行った。

「1列に並んでください。手の消毒をした方は、1つつ袋に入れてお持ちください。」

○配食台に並べた順番

①ビニール袋

配食台に並んだ食事を入れて運び、食後、自分のゴミを入れて捨てるため。

②飲み物

ペットボトル

③個包装のはし、スプーン

個包装で使い捨ての物を用意

④食器

使い捨ての物を用意した。ただし、2つ目に触らないような工夫が必要

紙皿の場合、取りづらく、2つめに触れてしまうことが予想されることから、お椀型の容器を裏返して上からわしづかみのように取ったり、2つ取れたら戻さずにそのまま使うように説明する。

⑤白米

アルファ化米

検証ではお湯は入れず

⑥レトルトカレー

検証では温めず

3. 食事スペースの分離

談話スペースの設置は推奨されていないため、食事スペースと居住スペースは、明確に分け、食事以外でテーブルを使用しないように配置した。

4. 飛沫に注意した配席

長机の両側に向かい合わないようイスを設置した。

5. ウエットティッシュの設置

汚した際に自分で掃除ができるように、ウエットティッシュを設置した。

6. 生ゴミ専用のゴミ箱の設置

ゴミ箱は、入口と反対側に設置し、食事スペースの移動を一方通行とした。

食べ残しなどの生ゴミは、各自が直接捨てられるよう、ザルを置いたゴミ箱を設置した。

特に夏での生ゴミの悪臭やハエなどを防ぐため、密閉できるゴミ箱を設置した。

食事の容器を含め、食事の際に出たゴミは、配食時に使用したビニール袋に入れて口を縛り、各自が直接ゴミ箱に廃棄できるようにした。

ゴミを扱う場所にはアルコール消毒液を設置した。

7. テーブル等の清掃

食事後の長机は、経済産業省が公表している新型コロナウイルスの消毒効果がある界面活性剤を含んだ住宅用洗剤を使用して清掃した。

ウエットティッシュなど、廃棄できるものを使用し、一方向での拭き掃除を実施した。

長机の清掃が終了した時点で、後半の避難者を呼び出すこととした。

8. 食事に併せた健康状態の確認

健康セルフチェック表に食事欄を設けておき、配食は、健康セルフチェック表の用紙と交換し、配食の個数管理と健康状態の確認を同時に行う方法を検討した。

末尾添付「健康セルフチェック表」参照

専門家の指導・課題

1. 食事スペースのリスク

食事スペースは、避難所内で唯一共用の場所でマスクを外すことができる場所であり、場所的にリスクが高い。

また、食事の際は、咳が出やすく、飛沫が自分以外の食事に付着することも考えられるため、飛沫感染のリスクも高い。

ただし、ベッドなどの上で食事を取ると、万が一、寝具の上でこぼしてしまうと最悪使用できなくなったり、我慢して使用することで腐敗や悪臭など衛生環境が悪化する可能性もあるため、段ボールベッドや寝具の予備なども検討しておく必要がある。

2. 座席のレイアウト

検証では、互い違いの席を配置しているが、例えば全員を壁側に向くように配置しても良い。

3. 食事時間の予告

食事時間は、その時間に合わせて家の片付けや用事を済ませ、一旦避難所に戻るなど、避難者の生活の基本となる。

配食順番などのルール、時間の周知、翌日の予定などは、重要な情報であり、掲示板の決まった場所に掲示するなど、伝達方法も含めたルール作りが重要であり、トラブルの未然防止となる。

4. メガホンのデメリット

大声を出さないようメガホンを使用して案内をしていたが、体育館など広いスペースでは内容が聞

き取れず、トラブルとなることが多い。

可能であれば、体育館のワイヤレスマイクなど、放送設備を使用した効果的な伝達方法も検討する。

5. 接触を避けるわかりやすい表示

食事スペースは、子供も1人で食事を取るため、「お茶、ご飯、おかず 1人1つずつ」などのようにわかりやすい表示にしたり、漢字の振り仮名、地域によっては外国語の表示なども検討する。

6. 生ゴミからの感染防止

食事の容器や使用したティッシュなどは、感染リスクが高いゴミであり、自分のゴミは自分で袋に入れて口を縛って廃棄することは非常に重要である。

食べ残しなどの生ゴミ、カップ麺などの汁物は、悪臭やハエなど衛生環境に直結する問題であり、段ボールなどを加工した手作りのゴミ箱ではなく、製品として販売している密閉フタ付きゴミ箱などを使用すると良い。

5-2 検証状況【食事スペース 写真等】



○食事スペース全体
滞在スペースと食事スペースの間は、段ボールベッドの空き箱で区分けを明示した。



○消毒してから配食台に移動
消毒の手前で健康セルフチェックをスタッフに渡す。
または、机の上に裏返して提出するように声掛けしても良い。



○配食台の状況
スタッフは2m離れた位置から、避難者に袋を持って1つずつ入れるよう説明

【専門家の指導】
子供もいることから、何を取るのか表示が必要

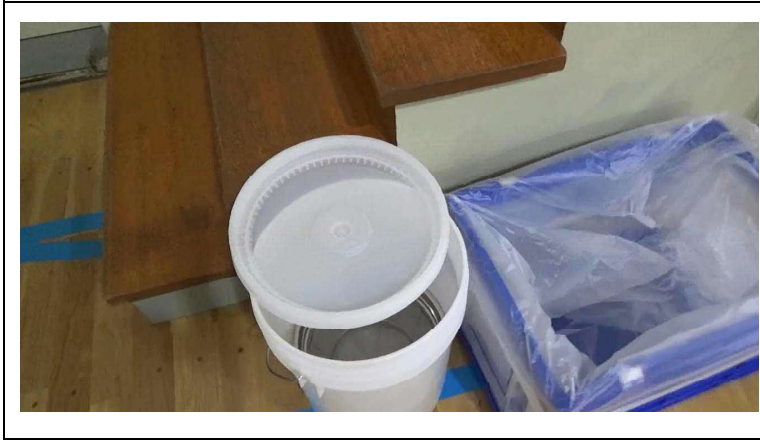


○各テーブルにウェットティッシュを設置
○一番奥にゴミ箱を設置

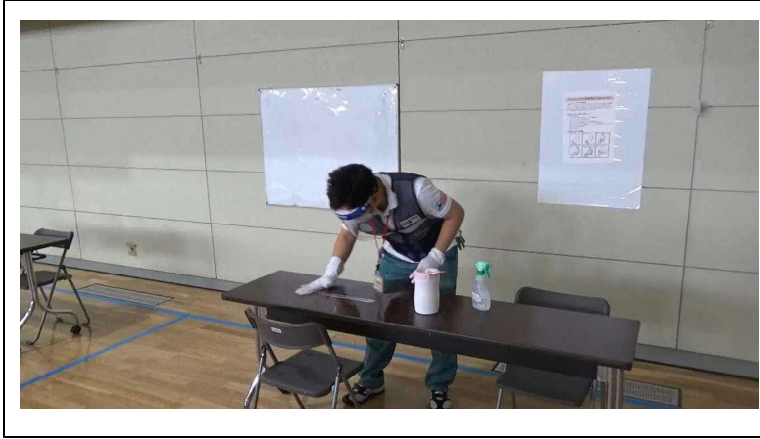
5-2 検証状況【食事スペース 写真等】



○食事スペースのゴミ箱
左：生ゴミ用フタ付きゴミ箱
中：食事容器などのゴミ
右：アルコール消毒液



○生ゴミ用フタ付きゴミ箱
ザルを入れて生ゴミに対応



○清掃
住宅用洗剤を使用して拭き掃除による清掃、消毒。
二度拭き不要で新型コロナウイルスの消毒効果のある界面活性剤入りの住宅用洗剤を使用。
テーブルは1方向に拭き取り、往復しない。